

招 集 期 日	令 和 4 年 10 月 12 日 (水)		会 議 の 場 所	301 会 議 室
会 議 の 時 刻 及 び 宣 告 者	開 会 の 時 刻	午 後 1 時 30 分	開 会 者	教 育 長
	閉 会 の 時 刻	午 後 3 時 00 分	閉 会 者	教 育 長
委 員 出 席 状 況				
氏 名	摘 要	氏 名	摘 要	
秋 本 文 子 教 育 長	出 席	平 野 博 之 委 員	出 席	
柿 沼 拓 弥 教 育 長 職 務 代 理 者	出 席	駒 澤 幸 浩 委 員	出 席	
高 瀬 賢 一 委 員	出 席			
議 事 参 与 者 及 び 説 明 の た め の 出 席 者	細 村 学 校 教 育 部 長	清 水 生 涯 学 習 部 長	須 永 教 育 総 務 課 長	今 成 学 校 教 育 課 長
	田 中 学 校 給 食 セ ン タ ー 所 長	米 花 生 涯 学 習 課 長	佐 藤 ス ポ ー ツ 振 興 課 長	根 岸 図 書 館 長 兼 郷 土 資 料 館 長
書 記 名	教 育 総 務 課 総 務 係 小 林			傍 聴 人 1 名
会 議 事 件 名	て ん 末			
開 会	教 育 総 務 課 長	本 日、1 名 の 傍 聴 人 が 有 る。		
	教 育 長	傍 聴 人 の 入 室 を 許 可 す る。  (傍 聴 人 入 室)		
	教 育 長	10 月 定 例 教 育 委 員 会 を 開 会		
日 程 第 1 新 任 委 員 の 紹 介	教 育 長	<p>教 育 委 員 会 の 会 議 は 公 開 が 原 則 と な っ て い る が、人 事 に 関 す る 案 件 等 に つ い て 出 席 委 員 の 3 分 の 2 以 上 の 多 数 で 議 決 し た 場 合 は 非 公 開 と す る こ と が で き る。本 日 の 日 程 の 中 で 議 案 第 52 号 は、議 会 の 議 決 を 経 る べ き 事 案 の た め、非 公 開 と し て よ ろ し い か。</p> <p>異 議 な し の 声 有 り</p> <p>さ る 9 月 30 日 を も っ て 任 期 が 満 了 し た 岩 崎 智 子 委 員 の 後 任</p>		

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第2 前回会議録の承認</p>	駒澤委員	<p>は、9月27日に羽生市議会の同意を得て、10月1日付で市長から駒澤幸浩委員が任命された。</p> <p>(駒澤委員あいさつ)</p>
<p>日程第3 報告事項1 令和4年度9月定例市議会提出(教育委員会関係)議案等について</p>	教育長	<p>9月定例教育委員会の会議録について諮った。</p> <p>異議なしの声あり</p>
	教育長	<p>前回会議録は、承認された旨宣した。</p>
	教育長	<p>報告事項1について、学校教育部長及び生涯学習部長から説明を求めた。</p>
	学校教育部長	<p>斉藤隆議員から、令和3年度羽生市一般会計歳入歳出決算のうち、「地域人材活用学校支援事業の在り方及び改善の取組」について議案質疑があった。</p> <p>「地域人材活用による学校支援事業の在り方」についてである。本事業は、地域に開かれた学校作りや地域とともに歩む学校作りを目指すものであると答弁した。</p> <p>「改善に向けた取り組み状況」についてである。令和2年度と比べ令和3年度は約1.65倍と延べ人数は増えているが、学校間格差が大きいことが課題である。改善にあたり、令和4・5年度、埼玉県教育委員会より地域学校協働活動推進に関する研究委嘱を受け、この研究の一環として地域人材の活用を推進していくと答弁した。</p>
	学校教育部長	<p>斉藤隆議員から、令和3年度羽生市一般会計歳入歳出決算のうち、「学校運営協議会の運営内容」について議案質疑があった。</p> <p>学校運営協議会には主に3つの機能があり、1つ目は校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること。2つ目は学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができること。3つ目は教職員の任用に関し、教育委員会規則に定める</p>

会議事件名	て ん 末	
	<p>学校教育部長</p>	<p>事項について、教育委員会に意見を述べるができることであると答弁した。</p>
	<p>学校教育部長</p>	<p>齊藤隆議員から、令和 3 年度羽生市一般会計歳入歳出決算のうち、「学校図書館図書整備の予算執行の在り方」について議案質疑があった。</p> <p>学校にとって必要な図書を購入できるよう、予算の執行状況や図書の出版時期も考慮しながら、学校に対し年間 7 回にわたり購入希望図書を調査し、その都度、希望図書を購入している。しかし、令和 3 年度は不用額が発生した。今後は予算を全額執行するよう努め、全校での学校図書館図書標準 100%達成を目指す」と答弁した。</p>
	<p>学校教育部長</p>	<p>田口聡議員から、令和 3 年度羽生市一般会計歳入歳出決算のうち、「教職員健康診断の希望者数が少ない点について」議案質疑があった。</p> <p>市が実施する教職員健康診断を受ける代わりに、一般財団法人埼玉県教職員互助会が指定する病院等での人間ドックを受けている教職員が多いためであると答弁した。</p>
	<p>学校教育部長</p>	<p>齊藤万紀子議員から、令和 3 年度羽生市一般会計歳入歳出決算のうち、「羽生市立学校適正規模審議会委員報酬 92,500 円について」議案質疑があった。</p> <p>「委員の男女比と年代」についてである。比率は男性 87%、女性 13%、年代は、委員の年齢を確認していないと答弁した。</p> <p>「どのように選ばれたのか」についてである。委員は、羽生市立学校適正規模審議会規程に基づき、令和元年度に役職と小学校区とのバランスで市教育委員会が選出したと答弁した。</p>
	<p>学校教育部長</p>	<p>齊藤万紀子議員から、令和 3 年度羽生市一般会計歳入歳出決算のうち、「適応指導教室について」議案質疑があった。</p> <p>「運営費と人数」についてである。令和 3 年度の運営費は 4,090,906 円。指導員は、所長 1 名、指導員 3 名。参加者人数は、小学生 2 名、中学生 7 名の計 9 名と答弁した。</p>

会議事件名	て ん 末	
	<p>学校教育部長</p>	<p>齊藤万紀子議員から、令和3年度羽生市一般会計歳入歳出決算のうち、「中学校における教育相談について」議案質疑があった。</p> <p>「相談員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの役割」についてである。相談員は生徒・保護者との面談及び教育相談、スクールソーシャルワーカーは主に生徒・保護者との面談及び教育相談、学校巡回及び家庭訪問、スクールカウンセラーは主に教職員と共に生徒の支援について協議、臨床心理の視点から教職員への助言や援助、生徒・保護者へのカウンセリングであると答弁した。</p> <p>「配置人数」についてである。相談員は、全員が会計年度任用職員で中学校毎に2名で計6名。スクールソーシャルワーカーは3名で、内訳は会計年度任用職員が2名、県の任用が1名。スクールカウンセラーは、全員が埼玉県での任用であり3名であると答弁した。</p> <p>「時間数」についてである。相談員は1日5時間で週3日、市のスクールソーシャルワーカーは1日4時間で週3日、スクールカウンセラーは2名が1日5時間50分で週1日、1名が1日5時間50分で2週間に1日の勤務であると答弁した。</p> <p>「連携状況」についてである。各中学校において定期的に開催される教育相談部会に相談員、スクールソーシャルワーカーが参加し、情報共有やケース会議等を行っていることと答弁した。</p> <p>「教育相談に来た生徒の人数」についてである。令和3年度3中学校で延べ1,783人と答弁した。</p> <p>「学校現場における教育相談の成果と課題」についてである。成果は、学校と連携し、不登校やいじめ問題等の未然防止及び早期解決につなげていること、課題は、教育相談室や適応指導教室に登校できない生徒・保護者への教育相談と考えていることと答弁した。</p>
	<p>学校教育部長</p>	<p>齊藤万紀子議員から、令和3年度羽生市一般会計歳入歳出決算のうち、「児童生徒への生理用品の無償配布について」議案質疑があった。</p> <p>「児童生徒からの反応」についてである。「置いてくれて嬉しい」「もらえて助かった」等、好意的な反応であったと答弁した。</p>

会議事件名	て ん 末	
	<p>学校教育部長</p>	<p>「無償配布の成果と課題」についてである。成果としては、生活が困窮している家庭の児童生徒の救済になったことと、急に必要になったときに対応できたこと。課題としては、女子トイレでの生理用品のいたずらや過度の持ち出し等の生徒指導上の課題であると答弁した。</p> <p>「設置場所による利用状況」についてである。保健室に置くよりも女子トイレに設置した方が、多く利用されている傾向であると答弁した。</p> <p>「関係機関との連携状況」についてである。生理の貧困問題については、家庭への支援が必要なケースもあり、スクールソーシャルワーカーや子育て支援課等の関係機関と引き続き連携し、支援を続けていくと答弁した。</p> <p>「今後の取り組み」についてである。各校に配布した生理用品は、当面の間は十分に対応できると考えているが、市内全校において、生理用品の数が少なくなってきた際には、市の財政状況を鑑み、改めて生理用品の無償配布について検討すると答弁した。</p> <p>齊藤万紀子議員から、令和3年度羽生市一般会計歳入歳出決算のうち、「小学校における学習支援員について」議案質疑があった。</p> <p>「小学校における学習支援員の役割」についてである。学習支援員の役割は、どの児童も意欲的に学習に取り組めるよう、授業者と連携して児童の学習を支援することと答弁した。</p> <p>「配置状況」についてである。令和3年度は岩瀬小・井泉小・羽生南小には2名ずつ、それ以外の小学校には1名ずつ配置したと答弁した。</p> <p>「配置基準」についてである。単学級の学校は1名、1学年2学級以上の学校で2名の配置を原則としていると答弁した。</p> <p>「昨年度より2名減少した理由」についてである。令和3年度からGIGAスクール構想の実現に向けて、一人1台学習用パソコンを貸し出した。それに伴い学校現場のICT環境の整備や児童生徒のICT機器の操作を行うGIGAスクールサポーターを配置する必要があり、GIGAスクールサポーター2名分の予算を捻出するため学習支援員2名分の予算をGIGAスクールサポーターに</p>

会議事件名	て ん 末	
	学校教育部長	<p>割り当てたものであると答弁した。</p> <p>「成果と課題」についてである。成果としては、授業補助として児童の様子を見取り、個々に応じた支援を行うことで児童一人一人の学習内容の理解に繋がった。課題としては、学習支援員は週 3 日勤務のため、学習支援員が不在となる日があるので、学習支援員を増やすための予算の確保が課題であると答弁した。</p> <p>野中一城議員から「不登校の解決に向けた取り組みについて」一般質問があった。</p> <p>「過去 5 年間の羽生市の小・中学校の不登校児童生徒数の状況」についてである。平成 29 年度は、小学生 11 人、中学生 45 人、計 56 人。平成 30 年度は、小学生 17 人、中学生 50 人、計 67 人。令和元年度は、小学生 14 人、中学生 51 人、計 65 人。令和 2 年度は、小学生 13 人、中学生 60 人、計 73 人。令和 3 年度は、小学生 16 人、中学生 77 人、計 93 人だったと答弁した。</p> <p>「羽生市における不登校の特に共通している主な理由・状況」についてである。友人関係の悩みや生活習慣の乱れが主な原因・状況としてあげられると答弁した。</p> <p>「学校の不登校の児童生徒に対し、その理由・状況ごとの対応」についてである。友人関係の悩みが原因で不登校となった児童生徒には、担任や市の教育相談員、スクールカウンセラー等が本人や保護者と面談をし、学校復帰につながられるようにしている。生活習慣の乱れによって不登校となった児童生徒には、放課後登校を認めたり、学習パソコンを用いてメッセージを送信し、担任がそのメッセージに返信したりと、積極的な関わりをもつよう努めていると答弁した。</p> <p>「不登校の解決に向けた取り組み」についてである。市教育委員会の取り組みは、大きく 5 つある。1 つ目が、児童生徒理解・教育支援シートの活用。2 つ目が、全ての中学校にさわやか相談室の設置。3 つ目が、市長部局との連携。4 つ目が、スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー・臨床心理士等の専門家との連携。5 つ目は、生徒指導研究推進モデル校の指定であると答弁した。学校の取り組みは、大きく 3 つある。1 つ目は不登校に陥らないための対策。2 つ目は、欠席した児</p>

会議事件名	て ん 末	
	学校教育部長	<p>児童生徒への対応。3つ目が、校内の不登校に関する研修会の充実であると答弁した。</p> <p>「羽生市適応指導教室の指導内容」についてである。大きく4つある。1つ目が、児童生徒の在籍校との連携の構築。2つ目が、児童生徒や保護者との個別カウンセリング。3つ目は、学習支援のための教科指導。4つ目が、市教育委員会・スクールソーシャルワーカー・臨床心理士との連携であると答弁した。</p> <p>「再編成した後の使用されない学校の活用、適応教室の移転」についてである。環境の良い場所への移転については、市長部局との連携を図りながら積極的に検討していくと答弁した。</p> <p>「不登校の児童生徒を対象とした特例校設置の見解」についてである。不登校特例校の設置については、現時点においては引き続き国や埼玉県の動向を注視しつつ、研究していきたいと答弁した。</p> <p>田口聡議員から「中学校の部活動とトップアスリート事業の融合について」一般質問があった。</p> <p>「部活動廃部の基準」についてである。部活動廃部の基準に関する規約等はない。部として活動ができない状況になった場合、校長が教職員と協議を重ね、PTA等にも相談をしながら、募集停止するかしないかを判断するが、このような状況になったとしてもすぐに廃部にするようなことは行っていないと答弁した。</p> <p>「部活動を廃部にした場合の器具等の活用」についてである。廃部となった場合、これらの器具等については、その学校の授業で有効に活用する。また、合同チームを編成した場合は、新たなチームで有効に活用していくと答弁した。</p> <p>「少人数の部活動の現状と今後の統廃合の予定」についてである。少人数の部活動の活動内容は、平日は少人数でできる練習メニューを各学校で顧問と生徒が考え、取り組んでいる。休日は集合して、チーム練習や練習試合をしていると答弁した。</p> <p>「今後の部活動の統廃合」についてである。現在、定期的に市内3中学校の校長と市教育委員会の担当者が、部活動の統廃合や部活動の地域移行を視野に入れた、今後の部活動全体の在り方について協議を重ねていると答弁した。</p>

会議事件名	て ん 末	
	<p>学校教育部長</p>	<p>「部活動参加時の交通安全指導」についてである。他校での合同練習や試合等を行う場合は、顧問が自転車の乗り方や交通ルールなど、交通安全について事前指導を行っている」と答弁した。</p> <p>「種目を越えてどの分野でも役立つ基礎体力・柔軟性・体幹の向上を図る施策」についてである。市教育委員会では、県教育委員会が作成したリーフレット「運動好きな児童生徒の育成のために」を各学校に周知している。また今年度、西中学校では埼玉県中学校体育連盟から委嘱を受け、生徒の技能や体力を向上させるための授業改善に向けた研究を行っている。さらに市教育委員会としては、埼玉県教育委員会が推奨している「新彩の国 体づくりチャレンジプログラム」実践事例等を各学校に周知していく」と答弁した。</p> <p>増田敏雄議員から「令和4年度全国学力学習調査について」一般質問があった。</p> <p>「結果と県内市町村における教科別順位」についてである。本市の小学校6年生の平均正答率は、国語が66%、算数62%、理科62%。続いて中学3年生の平均正答率が、国語65%、数学47%、理科46%で、教科別順位については、数値による順位を付けた公表は行わないので、把握していない」と答弁した。</p> <p>「結果分析と今後の課題と対策」についてである。様々な結果を分析すると、中学校の数学及び理科に課題があると捉えている。具体的な対策としては、羽生市学力向上推進委員会において、羽生市独自の授業スタンダード『はにゅうの子』を伸ばす教育」を活用した授業改善を図る。「教育長学校訪問」「学力向上学校訪問」で、各校の学力向上の取り組みの状況確認・見届け・指導を行っていく。また、埼玉大学教育学部附属小・中学校との授業改善・学力向上に関する連携協定や文部科学省が開発したオンライン学習システム「MEXCBT（メクビット）」等を活用しながら、授業改善・学力向上に努めていく」と答弁した。</p> <p>学校教育部長</p> <p>増田敏雄議員から「就学前教育と幼保小の連携について」一般質問があった。</p> <p>「就学前教育」についてである。幼保小の架け橋プログラム</p>



会議事件名	て ん 末	
	<p data-bbox="491 1003 624 1032">学校教育部長</p> <p data-bbox="491 1720 624 1749">学校教育部長</p>	<p data-bbox="643 286 1442 412">に示された幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿については、現行の幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている内容となっていると答弁した。</p> <p data-bbox="643 432 1442 938">「幼保小の連携」についてである。羽生市では、保幼小連絡協議会を昭和 52 年から立ち上げ、園児の小学校訪問、講演会、情報交換など教育の連続性を重視し、幼児教育の充実に努めている。令和 3 年度は新規事業としてチューリップ夢プロジェクトを立ち上げ、就学児童が小学校生活に夢と希望をもてるように入学予定の小学校にチューリップの球根を植えた。また、幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き、さらに小学校入学段階においては、各小学校においてスタートカリキュラムの編成、埼玉県教育委員会作成のリーフレット「子育ての目安『3つのめばえ』」等を配布し、家庭において小学校入学までに見つけて欲しい内容を伝えていると答弁した。</p> <p data-bbox="643 1003 1442 1081">増田敏雄議員から「ギフテッド児童生徒に対する対応と今後の課題について」一般質問があった。</p> <p data-bbox="643 1102 1442 1514">「対応」についてである。国では「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議」を設置し、こうした児童生徒の特性などの理解促進に向けた周知や研修に関する方策について、7 月に「審議のまとめ（素案）」を示した。現在、羽生市では、通常の学級における教育だけでなく、コミュニケーションの取り方など、円滑な学校生活を送ることができるよう、児童生徒一人一人に応じた指導や支援を行う通級指導教室の充実に向けて各小・中学校を支援するなど、きめ細かな対応に努めていると答弁した。</p> <p data-bbox="643 1534 1442 1659">「今後の課題」についてである。まずは、特定の分野に特異な才能のある児童生徒に対する認知度を高めることだと考えていると答弁した。</p> <p data-bbox="643 1724 1442 1803">丑久保恒行議員から「学力向上を目指して」について一般質問があった。</p> <p data-bbox="643 1823 1442 1948">「ALT 導入の現状、効果」についてである。本市では、令和元年度より市内全小・中学校に常駐配置した。全校配置の効果としては、一日を通して ALT が在籍していることで、休み時間や</p>

会議事件名	て ん 末	
	生涯学習部長	<p>掃除など、授業時間以外にも児童生徒は ALT とコミュニケーションをとることができ、生活に即した英語を会得する機会に繋がっている。中学校では、ALT の常駐により担当教諭との打ち合わせ時間を十分に確保できるようになった。</p> <p>「児童生徒の英語の学力」についてである。小学校が、令和 2 年度に市内小学校 6 年生を対象に実施した GTEC ジュニア 2 において、4 技能トータル集計で 4 段階のうち最上位のグレード 4 にまで達した。中学校は、令和 2 年度から令和 4 年度の埼玉県学力・学習状況調査において、中学校 2 年生英語の県平均正答率との差は徐々に縮まり、羽生市の平均正答率が向上している。中学 3 年生においても県平均正答率との差が縮まり、中学 3 年生も羽生市の平均正答率は向上している。また、本市が独自に実施している小学 3 年生から中学 2 年生までを対象とした羽生市学力アップテストでは、令和 3 年度において初めて中学 1 年生、2 年生ともに全国平均正答率を上回った。英語の羽生市平均正答率が向上しているのは、ALT 常駐の成果であると捉えていると答弁した。</p> <p>「英検 3 級試験、資格取得率」についてである。令和 3 年度に英語検定 3 級以上を取得した中学 3 年生は、440 人中 88 人、取得率は 20%で、補助金を活用した人数は 76 人だった。令和 4 年 8 月現在、英語検定 3 級以上を取得している中学 3 年生は 422 人中 91 人、取得率は 22%で、補助金を申請したのは 48 人であると答弁した。</p> <p>「今後の課題と対策」についてである。課題は、令和 4 年度埼玉県学力・学習状況調査の結果から、本市の中学生が苦手とする領域は「聞くこと」であることが分かった。そして、英検取得率向上のためには、受験者数の向上が不可欠であり、学校や市のホームページを通じて、羽生市英語検定料助成金交付事業のさらなる周知徹底を図る。今後は羽生市教育研究会英語部会と連携を図りながら、羽生市独自の授業スタンダード「はにゅうの子」を伸ばす教育を活用した授業改善、ALT のさらなる活用、学習パソコンの活用、附属中学校英語科との連携などを通して、英語の学力向上に向けた様々な対策を実行していくと答弁した。</p> <p>齊藤隆議員から「永明寺古墳魅力づくり審議会」について、</p>

会議事件名	て ん 末	
	生涯学習部長	<p>議案質疑があった。</p> <p>「委員数の減少理由」についてである。羽生市永明寺古墳魅力づくり審議会要綱の規定では、委員数を10人以内としていることから、予算書では本審議会委員の報酬10人とした。本審議会は、令和3年7月に開催され、新たに委員を9名委嘱したが、そのうち報酬支払いのある委員は6名だった。そのため、決算書には実際に報酬の支払いがあった人数6人と表記し、予算書との比較において委員報酬数が4人減少となったものであると答弁した。</p> <p>「審議内容」についてである。審議会では、内容について説明した後、「史跡永明寺古墳保存活用計画」策定後の永明寺古墳の保護事業について審議され、県指定史跡である永明寺古墳の本質的な価値を守ることを前提に、今後の活用のあり方について論議を進めていく方針が示された。また永明寺古墳の保存に関し、史跡指定地内の現状変更は原則として認められない方針は維持しつつ、現存する建築物を維持するため、やむを得ず現状変更する場合の取り扱いを定め、本計画に規定することとしたと答弁した。</p> <p>田口聡議員から「中学校の部活動とトップアスリート事業の融合について」一般質問があった。</p> <p>「トップアスリート事業の現状と今後の予定」についてである。「トップアスリート育成事業」は、平成22年度から実施し、野球、サッカーなどの各種教室をはじめ、体操教室やランニング教室なども開催してきた。令和2年度から今年度まで新型コロナウイルスの影響で開催を見送っているが、今後は感染状況を鑑みながら事業を再開していきたい。再開にあたっては、市体育館・中央公園の指定管理者と連携を図ることで、企業がもつプロスポーツチーム等との繋がりを最大限に活用し、より一層の事業充実に努める。また現在、羽生市が連携協定を締結している「埼玉西武ライオンズ」や「さいたまブロンコス」との連携も、引き続き活用していきたいと答弁した。</p> <p>「トップアスリート事業における指導者向け事業」についてである。相対的に、小学生は「敏捷性や瞬発性」が、中学生は「持久力」が、高校生は「筋力」が高まる時期だと言われ、子</p>

会議事件名	て ん 末	
	生涯学習部長	<p>どもの成長に合った指導をすることで、基礎的な身体能力を備えた体が作られるものと考えている。本事業では、これまでも幅広いスポーツに共通する「走る・投げる・跳ぶ」などの動きを学ぶ教室を開催し、運動の根幹を身につけることを狙いとして実施してきた。少年野球教室やバスケットボール教室などにおいても、年代に合ったトレーニング方法やその効果についても指導をいただいた。今後も新種目の枠を超えた内容の充実に努めるとともに、「柔軟性や体幹のトレーニングの重要性」を伝えていけるような内容を、指定管理者と連携しながら実施していきたいと答弁した。</p> <p>丑久保恒行議員から「地域コミュニティの形成拠点について」一般質問があった。</p> <p>「公民館の利用状況」についてである。市内に9つある公民館合計で、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前からの年間利用件数と年間利用人数は、平成30年度が10,202件、125,859人、令和元年度が9,034件、115,510人、令和2年度が4,840件、34,803人、令和3年度が7,138件、52,164人、令和4年度は8月末日現在で3,217件、25,213人であると答弁した。</p> <p>「利用形態」についてである。公民館の主催講座、PTAや体育振興会などの社会教育関係団体、自治会や社会福祉協議会などの行政関係団体、その他の団体・サークル等の四つに分類し、それぞれの利用割合は、平成30年度では主催講座が約6%、社会教育関係団体が約14%、行政関係団体が約11%、その他の団体・サークル等が約69%である。令和3年度では主催講座が約5%、社会教育関係団体が約18%、行政関係団体が約9%、その他の団体・サークル等が約68%である。コロナ禍において、利用形態の割合に大きな変化は見られなかったが、全体的にサークル団体が多く利用している。また公民館で開催する講座は地域住民以外の方も受講することができ、最近では複数の公民館が合同で講座を開催することにより、より多くの市民を対象とし、講座内容の充実を図っている。こうした取組の拡充により、地区の公民館が、その地区の住民の方の利用にとどまらず、より広い地域の方が利用する機会が増えてくると思われると答弁した。</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項2 高校生インストラクター講座「一高生とかわいいシュシュを作ろう！」の結果について</p>	<p>教育長</p> <p>生涯学習課長</p>	<p>「公民館の統廃合」についてである。令和3年3月に「羽生市公共施設個別施設計画」が策定され、令和3年度から12年度までの計画期間において、公民館については現在の施設を維持することを基本とし、今後も計画的な修繕を実施するというようにしている。中央公民館は、令和12年度までは単独施設として維持管理し、13年度以降に社会状況の変化を踏まえ、必要に応じて複合化の検討をしていくと答弁した。</p> <p>「公民館は、今後どのように変化していくのか」についてである。公民館は社会教育施設として生涯学習の拠点であり、地域活動センターとして地域防災の要であり、欠くことのできない施設だと考えている。公民館は当面の間、現状の施設を維持するとされていることから、教育委員会としても各公民館をしっかり管理・運営していくことが必要であると認識している。全ての公民館が昭和50年代に建築されているが、耐震補強工事をはじめ、必要な改修等を行ってきており、利用しやすい施設運営管理に努めて、今後も生涯学習の場として、そして地域交流の場として、より使いやすい施設を目指し、その機能と体制を維持していく。また、地域活動センターとして、地域と行政とのコーディネート役としての役割も果たしていく。今後は公民館ごとに設置されている公民館運営審議会委員をはじめ、公民館利用団体や地域住民の意見を伺いながら、生涯学習の拠点として、またコミュニティ作りの拠点として幅広い年齢層に利用していただけるよう取り組んでいくと答弁した。</p> <p>報告事項2及び3について、生涯学習課長から説明を求めた。</p> <p>この講座は、高校生の地域社会への積極的な参画意識の醸成を図り、高校生が学生生活活動で培ったスキルを地域に還元することで、地域社会の活性化を図るものである。羽生市教育委員会主催により、9月25日（日）の午前10時から午前11時30分まで羽生第一高等学校被服室にて開催した。</p> <p>内容は、家庭部の部員9名を講師にシュシュ作りを行ったもので、参加者は、小学生や保護者のほか、20代から60代までの</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項3 羽生学講座11公開講演会の開催について</p>	<p>生涯学習課長</p>	<p>一般参加者、合計12名だった。アンケートの結果、参加された方の満足度は非常に高く、今後もぜひ参加したいという声が多くあった。</p> <p>また、高校生講師たちからは、人に教えるということが新鮮であり、参加してくれた方が楽しくできたと喜んでいることに満足感や達成感を得ている様子が感じられた。今後も参加者のニーズと高校生のスキルをうまく結び合わせ、満足度の高い講座を開催していく。</p> <p>本講演会は、持続的な文化財保護の観点から、仏像彫刻の研究者による講演会を開催し、市民の仏像彫刻の有する価値についての知識を深め、理解を広めていくことを目的としている。</p> <p>羽生市教育委員会主催により、12月3日土曜日午後2時から3時30分まで、羽生市民プラザで開催する。講師は元埼玉県立博物館館長の林宏一氏で、羽生市の仏像について講演する。募集人数は20名とし、市内在住学生在勤者である。</p> <p>今後、広報はにゅう11月号及びLINE配信により周知を図り、参加者の募集を行っていく。</p>
<p>報告事項4 スポフェスinはにゅう2022の結果について</p>	<p>教育長  スポーツ振興課長</p>	<p>報告事項4について、スポーツ振興課長から説明を求めた。</p> <p>この事業は、市体育館等指定管理者と連携し、今年度初めて開催した。スポーツ体験会や体力測定等を実施することで、市民にスポーツレクリエーション機会を提供し、健康体力作りへの意識の向上を図るものである。</p> <p>開催日は9月10日土曜日で、市体育館及び中央公園において開催し、484名が参加した。</p> <p>実施内容は、スポーツ体験会や施設の無料開放、チャレンジtheスポーツとして体力測定やニュースポーツ体験を実施した。</p> <p>参加者からは、楽しかったという声や体験会を通じて定期教室への入会に繋げることができた。ニュースポーツ体験として実施したヘルスパレーやパスラグビーは、高齢の方には動きが</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項5 リサイクルフェアの 実施について</p> <p>報告事項6 令和4年度ふるさと 講座の結果について</p> <p>報告事項7 画家 故寺井力三郎 氏の作品展示につい て</p>	<p>教育長</p> <p>図書館長兼郷土資料館長</p> <p>図書館長兼郷土資料館長</p> <p>図書館長兼郷土資料館長</p> <p>図書館長兼郷土資料館長</p>	<p>少し激しかったようで、今後工夫していきたい。また、今回は第1回目の開催ということもあり、イベントの周知が十分でなかった、次回は SNS 等を活用して、早めの周知を行い、さらなる参加者、来場者の確保に繋げていきたい。</p> <p>報告事項5から7について、図書館長兼郷土資料館長から説明を求めた。</p> <p>図書館では、不用となり除籍した本や雑誌などを有効活用するため、希望者に無償譲渡するリサイクルフェアを実施する。 期間は12月15日木曜日から18日日曜日まで、15日は小・中学校や公民館などが対象、16日から18日は一般の方を対象に一人10冊を上限として有効活用する。今回のリサイクルフェアは3年ぶりの実施で、約8,000冊を予定し、会場は図書館郷土資料館の展示室で実施する。</p> <p>郷土資料館では9月3日土曜日に、「江戸時代の新郷と人々の暮らし」について、ふるさと講座を開催し、市内在住の26名が参加した。講師から江戸時代の古文書などの歴史資料に基づき、当時の上・下新郷地区について解説があった。 また、アンケートでは、「古文書から読み解くと分かってくる面白さがあった」などの感想があった。</p> <p>故寺井力三郎氏は、羽生市に長く居住し創作活動を行ってきた画家である。この度、地元の芸術文化普及の一助になればとの思いから、作品14点の寄贈があり、今回この寄贈作品を展示して多くの方に観覧していただくものである。 展示期間は11月19日土曜日から12月4日日曜までの休館日を除く13日間である。周知については広報はにゅう11月号やホームページ等を予定している。</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項8 その他</p>	<p>教育長</p> <p>教育総務課長</p>	<p>その他の報告を求めた。</p> <p>学校の再編成の進捗状況についてである。 令和7年4月の開校を目指して、再編成に関する具体的な事柄について協議する井泉小学校・三田ヶ谷小学校・村君小学校再編成準備会・専門部会の第1回会議を9月22日に開催した。 再編成準備委員会と専門部会の役割に基づき、それぞれの部会で担当する事務について協議する。 準備委員会は、各専門部会から報告を受け、意見を集約する委員会である。 再編成準備委員会と専門部会の委員は、各地区の保護者、教職員、地域住民、学校運営協議会委員、市職員により構成されている。 再編成準備委員会の委員長は互選により、井泉公民館の川俣館長、副委員長には三田ヶ谷小学校の関根校長、村君公民館の藤間館長に決定した。 令和7年4月の開校に向け、協議を進めていく。 10月5日に第1回を開催した学校運営部会では、校名、学校の名前や校歌・校章等について協議を行う部会で、まずは学校名について協議を行う。10月5日の会議では、学校名は公募することに決定した。今後、校名の選定方法について、事務局案を基に協議を進めていく。 なお、学校運営部会の部会長も互選により、井泉小学校の石川PTA顧問、副部会長は三田ヶ谷小学校の平野PTA会長、村君小学校の金子PTA会長となった。 他の専門部会についても今後順次開催していく。</p>
	<p>教育長</p> <p>平野委員</p>	<p>報告事項に関し、質問・意見を求めた。</p> <p>議会で多くの質疑があり、学校教育、教育委員会事業に関心をもってもらいありがたい。一緒に学校教育・教育事業に協力して、さらなる羽生市の発展に繋がるような前向きな提案等を</p>



会議事件名	て ん 末	
	教育総務課長	<p>いただきたい。</p> <p>議案質疑「適正規模審議会委員報酬 92,500 円について」の質問内容について確認したい。</p>
	平野委員	<p>令和 3 年度決算についての質問で、内容は委員会を構成する男女比や選出方法についてであった。</p> <p>不登校の解決に向けて、不登校の人数が徐々に増えているように見えるが、実情はどうか。</p> <p>また、不登校の原因となる生活習慣の乱れとは、どのようなものか。</p>
	学校教育課長	<p>不登校生徒については、増えていると感じている。</p> <p>生活習慣の乱れの具体的な内容としては、例えば昼夜逆転が挙げられる。食事についても、昼夜逆転により夜中に食事をする子どももあり、不登校の保護者について規則正しい生活ができていないのが現状である。</p>
	高瀬委員	<p>不登校の原因で友人関係、生活習慣の他にどのようなものがあるか。この 2 点だけか。</p>
	学校教育課長	<p>不登校のその他の原因として、怠学、学業の不振からくる不登校、学校に行くことに対する不安というものも挙げられる。家庭環境では、親子関係が原因で不登校となる児童生徒もいる。</p>
	高瀬委員	<p>不登校の人数が、小学校では平成 29 年から増え、中学校でも増える傾向にあり、全体的に増加している。中学校で不登校になる生徒の小学校での様子はどうだったのか。</p> <p>小学校の時に不登校の兆候が出ている子どもが多い。中学校になって急に不登校になることは少ない。小中連携を密にして、追跡すれば傾向が分かるのではないか。</p>
	学校教育課長	<p>不登校である中学校の生徒の小学校時の様子については、確かに小学校の頃から不登校が継続している子どももいる。</p>

会議事件名	て ん 末	
	柿沼委員	<p>小中連携では、連絡会を行っている。また、小学校 6 年生の段階で担任やスクールカウンセラーが面談を行った内容を、中学へ引き継ぎ、支援体制が切れないよう努力している。</p>
	学校教育課長	<p>不登校では、宗教が原因ということがあるか。例えば保護者が一生懸命で、その影響で学校に行かなくなる、行く時間がなくなる。そういう家庭環境の乱れについて、市内の実態はどうか。</p>
	駒澤委員	<p>本市において、日本人の児童生徒に宗教上の理由での不登校は確認していない。ただ、外国籍の児童生徒については、文化の違いから、それを理由としての不登校はいる。</p>
	学校教育課長	<p>不登校には、コロナ禍も関連している。罹患人数の増加やマスクが外せないこと、コロナ禍により保護者が学校に行かせないという声、学校で感染したことが原因で家庭に感染が広がることに対する懸念が不登校に繋がっているということについては、どう考えているか。</p>
	平野委員	<p>新型コロナウイルスについては、流行し始めた当初、この病気についての理解がまだ十分でない頃、コロナを理由にして学校に行かせたくない、感染したらどうしようという声はあった。現在は、新型コロナウイルスについて理解を進めてきたこと、世界の情勢も変わったことから、これだけを理由にして、不登校という児童生徒はいない。</p> <p>コロナ禍が子どもたちに及ぼす影響は大きく、これが生活習慣の乱れ等に繋がっているとも一部で言われている。</p>
	平野委員	<p>就学前教育と幼保小連携について、スタートカリキュラムで幼稚園・保育園から小学校に通う時点での子どもの差を無くしていく取組は理解した。実際に差があるのか。スタートカリキュラムをやることによって、改善することができているのか。差があった場合、下の学年、幼稚園・保育園に戻して、その間にやっていくよう、幼稚園・保育園に対し指導しているのか。小学校から中学校に行くときにも差が出るが、それに関しての取組についてはどうか。</p>

会議事件名	て ん 末	
	<p data-bbox="491 479 624 510">学校教育課長</p> <p data-bbox="491 1099 624 1131">平野委員</p> <p data-bbox="491 1435 624 1467">学校教育課長</p> <p data-bbox="491 1675 624 1706">教育長</p>	<p data-bbox="646 331 1449 414">学校ごと、地域ごとの差別にならないように注意していただきたい。</p> <p data-bbox="646 479 1449 607">小学校、幼稚園、保育園の連携、また小学校と中学校の連携について共通していることは、円滑な接続を心がけていることである。</p> <p data-bbox="646 622 1449 846">小学校と保育園・幼稚園で、その差をなくすのかは、小学校の教員としては、集団だけを見るのではなく、個別に、それぞれの能力を見ながら、その子に応じた手立てを行うように、就学前に通っていた幼稚園や保育園からの引き継ぎ資料を確認しながら指導をしている。</p> <p data-bbox="646 862 1449 1039">小学校から中学校への接続については、連絡会を行うとともに、小学校については近年では教科担任制を取り入れつつ、中学校の教育課程に小学校のうちから慣れていこうと取り組み、接続の円滑な処理ができるよう行っている。</p> <p data-bbox="646 1099 1449 1375">小学校入学で新たなことが始まってしまうので、そこで最初から乗り遅れないようにしてあげないと、子どもたちが最初の時はどうしても小さい世界で、ランク付けができてしまう可能性がある。その前の段階で、ある程度ついて来られないということがないよう考えて、もし問題があれば子どもたちの不利益になって困るので、しっかり対処して欲しい。</p> <p data-bbox="646 1435 1449 1612">保幼小連絡協議会の充実、また家庭の教育力も関わってくる。県から就学前の家庭に対して、「3つのめばえ」という小学校就学前につけておきたい力というものを就学時健診等で保護者に示し、協力いただいている。</p> <p data-bbox="646 1675 1449 1995">小学校入学前に、現在各小学校で実施している就学時健康診断で、学校の先生たちが一人一人の子どもたちに健康観察する。 学校教育課長が説明した県教育委員会からのリーフレット「3つのめばえ」がある。生活ならルールを守りましょう、こんにちはと挨拶をしましょうなど、最低基準の書かれていることをチェックして、保護者が確認できるようになっている。それを家庭に持ち帰り、半年間、小学校入学までに是非身につけ</p>

会議事件名	て ん 末	
	<p data-bbox="491 526 608 560">駒澤委員</p> <p data-bbox="491 1055 624 1088">生涯学習課長</p> <p data-bbox="491 1339 608 1373">平野委員</p> <p data-bbox="491 1579 624 1612">学校教育部長</p> <p data-bbox="491 1818 608 1852">平野委員</p>	<p data-bbox="643 331 1447 465">て欲しいことを知らせ、また小学校の先生たちが、就学時健康診断で気になることを各幼稚園・保育園等にフィードバックすることもできる。それにより対応していきたい。</p> <p data-bbox="643 526 1447 660">高校生インストラクター講座並びにその他様々な事業を展開し、子どもたちのみならず地域の方たちが学ぶ素地は多くあると知ることができた。</p> <p data-bbox="643 672 1447 996">LINE や広報など、いろいろ情報の伝達方法があり、SNS での発信、デジタルでの公開が、これから重要になってくると思う。LINE 配信はすごく有効だが、それ以外の Facebook や Twitter など、そういった SNS の媒体を使って告知すれば、1人2人3人と順次増えていく可能性はあると思う。ぜひ手法を検討し、そういった手段をとれば、より参加者が増えて、街の素地、一人一人の素地が高まってくる。</p> <p data-bbox="643 1055 1447 1279">現在、生涯学習課の事業については、広報とメール配信、LINE が、主な周知方法である。図書館では、Instagram を利用して事前に事業を周知したところ、イベント参加者が増えたと聞いているので、今後はもう少し積極的な SNS の活用について取り組んでいきたい。</p> <p data-bbox="643 1339 1447 1518">ギフテッド児童については、これからの対応になり、負の部分を補う形の教室や学校かと思う。シカゴのギフテッドクラス制度の特徴は、その才能を伸ばすということも含めての教育だったのか教えて欲しい。</p> <p data-bbox="643 1579 1447 1758">25年前の私の経験ですが、いわゆる日本での飛び級が、公立のアメリカのシカゴの学校であった。学年につき1クラスだけ、飛び級制度で試験を受けて選抜された人が、そこに所属するシステムだった。</p> <p data-bbox="643 1818 1447 1953">それには社会に対する適用も含まれ、それを一緒にやりながら、その特徴のプラスの部分を先に進めるということなのか、それともその部分だけを上げるのか。</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第4 議案第52号 羽生市体育館等指定 管理者の候補者の選 定について</p> <p>閉会</p>	学校教育部長	特徴を伸ばすというようなイメージであった。
	高瀬委員	幼保小の連携について、市長部局との連携はどうか。
	学校教育課長	子育て支援に関する内容にも関わることから、保幼小連絡協議会については、子育て支援課長及び子育て支援課職員との連携を密に図っている。また、会議以外でも、子育て支援課と情報交換を行っている。
	教育長	<p>報告事項については、よろしいか。</p> <p>異議なしの声あり。</p>
	教育長	<p>議案第52号については、会議を非公開とする。</p> <p>(会議非公開 可決)</p>
	教育長	これより、会議を公開する。
	教育長	次回教育委員会の日程について、事務局より説明の旨。
	教育総務課長	11月定例教育委員会は、11月9日水曜日 午後1時30分より、302会議室にて開催する。
	教育長	閉会を宣した。

会議事件名	て ん 末	
		<p>教育長 _____</p> <p>委 員 _____</p> <p>委 員 _____</p> <p>書 記 _____</p>